

---

# 鼻毛にまつわるエトセトラ

ケイ

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

鼻毛にまつわるエトセトラ

### 【Nコード】

N9788C

### 【作者名】

ケイ

### 【あらすじ】

4本の鼻毛がおりなす、ハナゲチックで切ないラブストーリー。。  
。これを読んだら、鼻が小さくなります。え？なんでかって？小話  
(コバナ(小鼻)シ)だから(笑

## （前書き）

いろんな悩みがあると思うけど、そういつときは好きなこととして忘れさったほうが得。

そつだね、話すことなんて何もないけど昔話でいいなら少し話そうか。

昔さ、バイトしてたときに先輩とよく飲んでたんだけど、その先輩（S）は、同僚のRさんに惚れてて、ある日、ついに先輩はその人に告白する決心をしたんだ。

でさ、先輩がRさんに、休みの日に飲もうよって誘ってね、OKもらって、ふたりがいっしょに飲むことになったんだ。

で、先輩にRさんが来るまでいいから飲まないかって言われて、それまでいっしょに飲むことにしたんだ。

でね、飲んでしばらくたって恐ろしいことに気づいたんだ。

．．．．．

．．．．．

．．．．．

あ、

先輩、

鼻からなんか

黒い糸たらしてる

ちよつと酔つてたんで  
最初はそういうのが、今流行つてんのかな？  
つて思つて、  
先輩に聞こうとして顔近づけたときに、

ん？

左の穴からだけ飛びでてんな。

ん？

アレ？

コレ、

よく見たら、

鼻毛じゃね？

アレ？

今からRさん

口説くんだよね。。

コレってヤバくない？

つていうかヤバくない？なにげにヤバくない？

つて思つて

やっぱ自分によくしてくれるいい先輩だったからここは彼を傷つけ  
ずに

なんとかこの不注意に気づかせてあげようつて  
思っているいろと試してみた。

まず、

自分の鼻をやたら気にするそぶりを見せた。

先輩と話しながら、

鼻をかいたり、

自分の鼻を指さしたりしてみただけど、  
気づいてくれない。

コトバの端々に、

それとなくキーワードとかも入れてみた。

『鼻<sup>ハナ</sup>ミズキっていい歌ですよね』  
とか

『アレ？ことわざでよくいう鼻（棚）からボタモチってどういう意味でしたっけ？』

とか

『遠距離なんかで、彼女と鼻（放）れるのってけっこうつらいですよ。』

とか

『サッカーで、ドイツの鼻ゲルマン魂に感動しましたよ。』

と、露骨に暴露したりもしてみたけど先輩は緊張してるみたいでまったく気づいてくれない。

で、なんでか近くにいたおっさんの二人組が笑ってんだよね。

もうだめかな、って思ったときに先輩が

『ちよっとトイレ行って鏡見てくる』

って言ってトイレに向かった。

あ、俺のはなげ（けなげ）な合図に気づいてくれたんだって、そのときは心の底からホッとした。

少したつて、先輩が戻ってきた。

『髪、セットしてきた』って言って座った瞬間、俺は自分の目を疑った。をい、右からもなんか出てんぞ。

ありえないよね。

髪セットしに行つて、鏡で自分の顔見てきて、何をどうしたらこんな出来事が起こるの？

つてか、どんなセットのしかたしてんだよ。

見事に二つの穴からコンニチハしてるじゃん！

コンニチハナゲじゃん！両刀使い気取りですか、コノヤロー……！！

となりのおっさん爆笑してるし。

何？今、流行つてんの？それ？

俺が間違ってたの？

つて思つた瞬間、なんかどうでもよくなつてね、酔いに任せて

『なんでやねん！増殖し　とりますがなっ……！！』　って言って先輩の顔、ひっぱいた。

仕事できるし、付き合いいいし、尊敬してたから。

それだけに熱がこもっちゃって、関西弁（笑

おっさん、大爆笑。

さすがにムカついたんで鼻から酒飲ませた。

その後、先輩に





ってか、

さっきの先輩もそうだけど、何で2本!?

せめて1本でよくない? 日本(2本)人だからですか?

冗談にすらなってるねー

とりあえず、もう疲れてたんで思考がうまく働かなくて、

『最近、忙しいんですか?』

と俺。

なんか忙しいと鼻毛に手をかけるヒマもないっていうから、あたり  
さわりのないところから触れてみた。

Rさん

『うん、最近やること多すぎて、けっこう疲れてる』

俺

『あー、そうなんだ。忙しいとき、肌の手入れとかできなくな  
い?』

Rさん

『うん、あんましやってない』

俺

『鼻の手入れとかさ』

Rさん

『鼻? なんで鼻?』

Rさん、笑いながら、反応する。

俺

『忙しいとき、鼻からなんかでてくるんじゃない?』

Rさん

『あー、ニキビとか、油とか? うん、たしかに ストレスたまるとでき やすくなるよね?』

いや、違うから。

俺が言いたいのは、

今、目の前で絡まってるものことだから。

俺

『うーん、そうだね。』

あと、鼻毛とかね。』

Rさん

『鼻毛? 鼻毛って(爆

なかなか出ないよ、そ んなん』

俺

『ですよ〜』

もうしかたないっていうか、早くこの場から立ち去りたかったし、

俺

『疲れてるっていったから、マッサージして あげる』

Rさん

『え? マッサージ?』

当然、笑う。

が、お構いなしに続ける

俺

『そう、マッサージ。俺、得意だから。肩ただけだから。』

勝負は一瞬。

ミスは許されない。

彼女の裏手に回り、目をふさいで、鼻毛？本をぶっこ抜く。それしか方法はない。

ってか、もうそれしか思いつかない。

というか、具合が悪い。早く帰りたい。

俺

『じゃあ、ちよつと最初 ビビツとくるから。』

Rさん

『えー？ビビツて何？』

さっき思い浮かべたシミュレーション通り、目をふさいで、鼻毛を抜いたっ！！  
と思ったら、汗ですべった。

げえっ、最悪！！

Rさん

『痛っ！！』

何！？

何したの！？』

気にすんな、俺。  
結果オーライ！！  
もう一度。

ぶちっ！！

ようやく抜けた。  
抜いた鼻毛を捨てて

Rさん  
『いだっつ！！』

俺  
『ゴメンゴメン、  
今のが最近流行ってる 電気治療ってやつだよ 俺、静電気出やすいから』

苦しまぎれのウソとはいえ、それが今の俺にできる精一杯のフオロ  
ーだった。  
でも、

Rさん  
『ってか、  
鼻毛抜いたでしょ？』

と怒り口調でつつこんできた。

俺  
『ごめん、言ったら気まずいと思って言えなくて・・・』

Rさん

『いや、いおーよ!!  
最悪なんだけど  
出てたの?』

俺

『はい、出ました。  
すみません。』

Rさん

『Sくんも気付いてた?』

俺

『さあ、わかんないです なんか来たときから  
お腹の調子が悪いみた いで。』

Rさん

『あー、そう。』

.  
. . . . .  
. . . . .  
. . . . .

無言状態が続く。

き、きまずい。。。。

でも、俺は何一つ後悔してない。

失敗をいちいち悔やんでもしかたない。

俺

『S先輩のこと、どう思っ てます?』

単刀直入に聞いてみた。

Rさん

『．．．頼りがいがあつて、いっしょにしていると安心する』

それから無言で俺はトイレに向かった。

先輩は、なんか鏡の前でウロウロしてた。

俺

『先輩、Rさんが、先輩とずっといっしょにいた　いつて言つて  
ましたよ　』

アレ？なんか違うか？

まあ、そんなカンジなこと言つてたよな。

先輩

『え！？』

マジ！？

聞いたの？』

俺

『先輩のこと、待つてま　すよ。』

俺、もう帰りますんで　がんばってください』

つて言つて、ふらつきながら帰った。

気がついたら、公園のトイレで寝てた。

携帯見たら、昼過ぎてた。

あ、メールきてるし。

先輩からか。

先輩

『Rさん、彼氏いるって言　ってたよ』

それだけ。

それから先輩とは一言も口聞いてない。

てか、完全にシカトされてた。

Rさんは、そのあとすぐにバイトやめて、その後のことはわからない。

先輩もしばらくしてやめた。

俺は、そのあと少し続けてやめた。

現実と理想はかけはなれてる。

なかなかハッピーエンドってわけにはいかない。

パイレーツで有名なジョニー・デップはユングっていう役を演じたときに、こう言ってた。

『俺が演じたユングって役は、人生において、明らかに間違ったことをして、それに気がついていながら、自分の罪を乗り越えていくことで、過去を振り返ることなく、そのさきに進もうと必死に願った人なんだ』

その言葉を聞いて、

失敗したからってそれで終わりじゃない。

その失敗を乗り越えていくことで、立ち止まらずに、先に進めるんだって思っ、俺は今を生きてる。

誰だって思い出したいくないことの二つや三つはある。

そういうのは、笑い話にして捨てるのが一番だと思うよ。

最後にこの物語はフィクションではありません。ノンフィクション  
でもありません。  
しいて言うなら、ハクション・……<—



（後書き）

鼻毛にまつわるエトセトラ、いかがでしたでしょうか？みなさんの鼻の健康を祈って、あとがきとさせていただきます。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連「横書き」という考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、たんのう堪能してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n9788c/>

---

鼻毛にまつわるエトセトラ

2010年10月22日00時38分発行